

## 第2回下川町総合計画審議会(福祉・教育部会) 会議録

日 時 令和3年11月17日(水)

18:45～19:10

場 所 総合福祉センター「ハピネス」

### 《保健福祉課》

出席者(委員): 瀬川部会長、伊藤副部会長、金澤委員、品地委員

出席者(町): 市田課長、寺西上席主幹、白石主幹、古屋主幹、大原主幹

### 公共施設名 総合福祉センター「ハピネス」

委員: 事前に資料を読んでいるので、補足があったらお願いしたい。

町: 保健福祉課の3施設については管理費が主なものなので、ご質問あればお答えしたい。

委員: 昨年度の公共施設カルテでは、平日の夜間及び土曜日については、閉館するとのことだったが、実施されなかった。実施されなかった理由を教えて欲しい。

町: 使用料を含めて検討する予定だったが、新型コロナウイルス感染症の関係で、使用料の見直しなどについては、議論は進んでいない。また、ハピネスについても議論出来ていなく、令和3年度から4年度までは現状維持で考えている。今後、町長の指示により使用料の見直しを含めて議論をしていく。

委員: 平日の夜間及び土曜日の閉館を実施する方向で、令和4年度から検討する予定なのか。

町: ハピネスだけではなく、他の公共施設と並行して進めていくため、令和4年度の議論になる。

委員: 昨年度の部会意見で、他の公共施設に統合する場合、統合前に出来ていた活動が制限されないようお願いしていたので、検討して欲しい。

町: ハピネスは、3ヶ年計画で屋根の雨漏りを修繕しており、令和4年度で修繕が終わる予定。共生型住まいの場「ぬく森」の修繕は、今年度は屋根、来年度は壁の改修を行う予定である。また、今後の計画では、認定こども園も建設から15年が経過し、屋根の雨漏りや窓枠の修繕が必要なため、今回の総合計画の変更にも盛り込んで

いきたい。

### 公共施設名 共生型住まいの場「ぬく森」

委員：ぬく森や認定こども園の修繕は、木材の価値を高める意味合いの修繕になるのか。鉄骨にしない方向で考えていくのか。

町：公共施設にはよるが、認定こども園の窓枠の修繕については、外側がアルミで中が木材の排煙窓だが、経年劣化で内側の木枠が反って開かない。通常の排煙窓はアルミのため軽いが、木枠の重みで開かない。次回修繕する時はどうするか検討する。

委員：木は歪みが出る。歪み防止など補強の対策と両立出来るように検討して欲しい。安易にその時だけ修繕しても、また何年かしたら余計な修繕費が掛かってしまう。

町：ぬく森の修繕は、壁が木材のため反っており、引っ掛けると危険なため、直すことにしている。また木材で直すと数年後にまた同じことになる可能性がある。森林の町ということはあるが、木は耐久性が持たない。

委員：木材にこだわらず、耐久性と安全性を考慮して欲しい。

### 公共施設名 認定こども園「こどものもり」

委員：日ごろからお世話になり、ありがたく利用させていただいている。施設収支のマイナス額が大きい、人件費が大きく占めていると思う。職員が不足していると昨年度も聞いており、新年度も職員募集をしている。世代別の人口の推移では、2005年から2020年まで、子どもの数は目立った減少は見られていないが、今後、人口が全体的に減ることが予想される。当然、子どもの数も減るが、職員数と子どもの入所者数のバランスが、今のような不足の状態でなくなった時はどのような対策を考えているか。

町：保護者の考え方も多様化しており、子どもの数は減っているが預けたいと思っている方が増えてきている。3歳以上は100%入園しているのは変わらないが、3歳未満は過去には3割前後だが、近年は4~5割近くが入園している。保育士の配置基準では、3歳以上児は保育士1人に対する子どもの数が多い。5歳児は子ども30人に対して1人、未満児は保育士1人で子ども3人しかみれない年齢もある。保育士の数は、子どもの年齢に応じて確保しなければならないこともあり、以前から職員の募集をしている状況である。職員採用にあたっては、将来も見据えていかな

なければならない。現状では子どもの数が減っても預ける率が減らないと想定している。

委員：旭川市近郊の方に聞くと、将来子どもの数が減ることを予測し、正職員をとらないで、会計年度任用職員の待遇を改善して対応しているそう。正職員でもその後、保育士ではなく配置換えで一般職に移ることもあり得ることを条件に採用している事例もある。

委員：保育士の基準は、正職員でなければならない縛りはあるか。

町：どちらでも構わない。多様な働き方で募集しており、毎日働きたい方もいれば、週に2～3日働ける方でも都合に合わせて採用している。勤務時間は全員がフルタイムではないので、シフトを組みながら基準に合わせた人数で対応している。

町：子どもの数だけではなく、子どもにかかる先生が必要になる。障がいのある子どもは1人の先生が見なければ安全が保てない。

委員：専門職から一般職の配置換えはあるのか。

町：出来ない訳ではないが、基本は専門職で採用しているので、配置換えは難しい。専門職も事務は行っているが、職場替えは簡単ではない。

委員：いよいよ子どもが減ってきたら、仕方がなくということもあるのか。

町：傾向を見ながら、会計年度任用職員を補充しないなど調整していかなければならない。

## 第2回下川町総合計画審議会(福祉・教育部会) 会議録

日 時 令和3年11月17日(水)

19:10~19:35

場 所 総合福祉センター「ハピネス」

### 《山びこ学園》

出席者(委員): 瀬川部会長、伊藤副部会長、金澤委員、品地委員

出席者(町): 中澤園長、森笠主幹、高島主査、浅水主査、藤根主事

### 公共施設名 障害者支援施設「山びこ学園」

町 : 内容説明

委員: 新型コロナウイルス感染症の影響で、「職員が家にいる」とはどういうことか。

町 : なるべく外出を職員も控えるよう呼びかけているということである。

委員: コロナ禍で職員もストレスで苦しい状況だと察したが如何か。

町 : 自己都合で2名が退職したが、次の目標があつてのことと聞いている。2名欠員で募集中である。

委員: 調理関係で募集をしても応募がない状況だが、目途はあるか。

町 : 行政情報告知端末で募集をしているが、一の橋まで通勤するのが大変という話はいただく。何名かは働いてみたいという声もあるので、忍耐強く待っている状態である。

委員: 「障がいのある人も無い人も壁がなくなる」という言葉に共感した。町に普通に障がいのある方々が暮らせて、周りが見守りながらという形に少しでもなっていけば、町の人も理解が進むと思う。障がいの度合いにもよるだろうが、少しでもそうなっていくと良いと思う。

町 : 開設から35年が経過するが、買い物や理美容など、実際に店に行って利用しているが、利用者を温かく受け入れていただいている。イベントなどを開催しながら、より一層交流出来るような機会をつくっていきたい。

委員: 山びこ学園の利用料は、どのような仕組みか。

町 : 介護給付費は、障害支援区分による単価に基づいて各市町村が負担し、北海道国保

連を通じて町に入る仕組みで、個人負担もある。

委員：職員募集の際は、資格は求められるのか。

町：資格は無くても良い。

委員：高齢になると障害者総合支援法から介護保険に移行ということになるのか。山びこ学園にいるということは、そのまま障害者総合支援法に基づいたサービスということになるのか。

町：そのとおり。

委員：障害を持つ保護者として心配なのは、将来的に、高齢化、重度化して悪化した時に、山びこ学園でずっとお世話になれるのか、また、あけぼの園に移行出来るのか。

町：以前、介護保険適用の年齢に達し、高齢者施設の方が、支援的にご本人が楽になれるという判断をされたケースはある。法律が違うので、円滑に移動することが難しく、改めて介護保険の認定を受けなければならないが、障害者施設にいるうちは介護保険の適用はないので、一度区切りをつけて移行という形になるが、ハピネスの協力も得ながら進めた。

委員：収支だけで判断できない施設と理解はしているが、マイナス額が大きいと感じる。マイナス額の推移や傾向、今後の収支見通しと経営改善の方策はありますか。

町：大きな変動はないと思う。障害支援区分が上がれば介護給付費も上がるり、国の制度改正によって単価も上がっている。重度化すれば加算も付くので、徐々にだが収入は増えつつある。古い施設なので、大きな改修をした時は負担になる。極端な増減はない。経費で大きいのは人件費で、ベテラン職員が増えれば人件費は増えていく。

委員：今後も収支バランスは変わらないと考えてよろしいか。

町：なるべく大きな改修はしないで、耐用年数が到達した時点で、新たな施設運営を検討した方が国からの補助金もある。改修には補助金はないが、国が勧めるユニット化の方向になるとすれば、10年後位には、新たな施設の運営方法を考えなくてはいけない。

## 第2回下川町総合計画審議会(福祉・教育部会) 会議録

日 時 令和3年11月17日(水)

19:40～20:05

場 所 総合福祉センター「ハピネス」

### 〈あけぼの園〉

出席者(委員): 瀬川部会長、伊藤副部会長、金澤委員、品地委員

出席者(町): 齋藤園長、平間主幹、長谷川主査

### 公共施設名 特別養護老人ホーム「あけぼの園」、デイサービスセンター

町 : 内容説明

委員: 収支バランスを揃えることが目的だけではないと理解しているが、施設の中ではマイナスが大きく感じられる。10年間でのマイナス額の推移はどうか。

町 : 近年は横ばい傾向である。介護報酬では、入居者の利用率を上げる努力をしており、例年、90%程度の入居率だが、98%位までに上げたいと思っている。利用者が入院された場合、3ヶ月で退所になるが、若干短い期間で退所していただき、新しい方に入所いただきたいと考えている。

委員: 施設の老朽化もあるが、今後の見通しはどうか。

町 : 経年劣化した箇所を改修すると経費が増えてくる。24時間開所している施設では人が必要である。一定程度の支出はあるが、青天井で増えていくことは出来ないと考えている。人数を増やさなくても、良質な介護サービスが行えるよう、介護職員が、通常業務の中で手間となっている部分や、人がいなければ、手が回らない部分をICT化やロボット化して、人数を増やさなくても効率的な運営をしていければ、経費も抑えられると考えている。

委員: 昨年度に話のあったペーパーレス化は進んでいるのか。

町 : 現在、補助事業で進めているが、事前着手が出来ず、北海道からの指令が11月末の予定である。12月から介護ソフトなどを導入できる予定なので、ペーパーレス化を図れると思う。

委員: 介護のロボット化はどうなったのか。

町：現在はまだ導入してない。令和4年度の補助事業が通れば、ベットセンサー、それに連携したカメラ、マッスルスーツなどを検討している。介護職は、移乗や排せつ介護で腰を痛めるので、体に負担が掛からないよう、腰痛になった場合や、職場復帰した際に使用出来ればと検討しております。

委員：募集しても応募がないのは、やはり重労働であるためで、ロボットを導入して介護が楽になったとなれば、まだ人材も来てくれるのではないかと思う。

委員：補助事業は最初に機械を入れる事業なのか。

町：そのとおり。

委員：導入後のメンテナンスはどうなのか。メンテナンスの補助事業はないのか。

町：導入だけでメンテナンスの補助事業はない。維持費が掛からないようなメンテナンスフリーの機械を導入しようと検討している。

委員：現在の職員は何名か。

町：介護職員が9名、会計年度任用職員が15名である。

委員：デイサービスは待機者はいるのか。

町：登録者は全員利用している。前年度より10名程度増えている。月曜日は、ミニデイで午前・午後とも20名が利用している。

委員：デイサービスは黒字だが何故か。

町：利用者が増えたためである。

委員：利用者が増えた理由は何か。

町：サービスの提供の仕方を見直した。以前は、入浴は決まった方だけだったが、希望があれば入浴出来るようにした。

委員：建て替えの予定はあるのか。

町：現在のところ考えていない。導線の悪い所などを効率よく使えるよう、年次的に改修していきたいと考えている。

委員：改修に国の補助はないのか。

町：無い。